

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 27 日現在

機関番号：54401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26350214

研究課題名(和文)統合的キャリア・プランニング導入による女性技術者の意識変革過程の解明と効果の検証

研究課題名(英文)Verification of the mechanisms of the women engineers' consciousness change from the integrated carrier life planning's view point

研究代表者

中谷 敬子(Nakatani, Keiko)

大阪府立大学工業高等専門学校・その他部局等・准教授

研究者番号：60295714

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：女性技術者のキャリア構築に対し、より広義なキャリアの定義と、個人の人生全体と社会・組織を考慮した統合的なライフプランニングの概念が導入された。広義のキャリアの定義は、個人の仕事に関する自己達成感や安定感のみに焦点を当てる単純なワークライフバランスの維持問題を中心としない点特徴的である。現在の女性技術者のキャリアとその構築に関する意識や現状を調査・分析結果に基づき、必要な支援を提案し、統合的なキャリア発達を促すための協働的な学びの場を設計し、実践し、個人の意識変革・発達過程が解明された。結果として、一連の研究の有効性が検証された。

研究成果の概要(英文)：For the carrier construction of the women engineers, a concept of the integrated life planning that considered more extensive definition of the carrier and the relationship between the personal whole life, society and organization was introduced. It is characteristic that the extensive definition of the carrier assumes not the work-life balance that not focus only on self-sense of accomplishment and sense of stability about the personal life but also the balance between the personal life and society. As a result, a new concept of the carrier construction was suggested including the vision of building their life-plans and career-plans by themselves was suggested.

研究分野：キャリア発達支援、キャリア教育、機械工学

キーワード：統合的キャリア・プランニング 女性技術者 キャリア構築 内的キャリア キャリア発達プロセス

1. 研究開始当初の背景

従来のキャリア設計（キャリア・プランニング）においては、特性因子理論によるアプローチ、すなわち、個人の特性と職務のマッチングが主流であった。しかしながら、近年わが国で社会問題となっている若年層の離職率の高さからも分かるように、社会構造、組織、個人の急速な変化と相俟って、一人ひとりの人生そのものを設計する全体的な個人まで配慮した、より有効な、キャリアの概念、キャリアプランニングの方針が必要になってきている。D. スーパーはキャリアを「個人にとって満足でき、社会にとっても利益となる自己概念の発達と実現である」と定義し、人が生涯を通じて持つ役割（子供、労働者、家庭人、など）の連続であるとした[1]。言い換えると、人は複数の潜在能力を持っており、キャリアを決定するということは、その個人はある能力を優先して発達させることを選択しているに過ぎないと捉えることができる。しかしながら、現在、特に、ニート、フリーター、および、若年層離職者は、「個人の才能に完全にマッチした一つの職業がある」という概念にもとづくキャリア・プランニングをめざし、苦しんでいる。女性技術者、研究者においても、仕事と家族における葛藤と解決が大きな課題となっている。多くの研究から、多様化する職場環境の中で心理的な成功に重点を置いているキャリア選択とその有用性について報告がなされている。一方、従来の、そして、現在まだ主流であるキャリア・プランニングに対するアプローチは、社会も個人も変化せず、仕事は生涯を通じた選択であるということ前提としている。しかし、短い期間に多くのライフイベントを抱える彼女たち個人の支援においては、それぞれ個人のキャリアの移行、価値観、そして、組織との間の相互関係を、個人自身が考え、理解し、行動することを支援する必要があると考えられる。

応募者は、研究代表者・分担者としてこれまでに受けた研究費とその成果等欄に示す科研費の支援を受け、当該研究課題に密接に関係する学術活動を行ってきた。また、(社)日本工学教育協会シンポジウム「これからの工学部～女性を増やすには何が必要か～」の開催、文部科学省女子中高生理系進路選択支援委託事業「女子中高生向けの関西科学塾」の支援（企画・実行委員のメンバー；女子学生のためのロールモデルとして過去8年間）、複数の所属学会の女性エンジニア支援などを行いながら、研究成果の積極的公表に努めてきた。

一連の実践・研究の中で明らかになったことは、以下の2点である。

(1) 個人の内面の充実、価値観を大切にす
るキャリア支援は重要であり、就労意欲、働
くための本来の目的、いわば、働き甲斐の認
識と就労への納得感に関して効果的ではあ
るけれども、それを社会や組織の中で、その

内省の中での気づきや、個人の想いを大切
にする形でキャリア構築を実践するためには、
多くの課題がある。

(2) 女性技術者、女性技術者・研究者を
目指す女子学生のキャリアに対する学習意欲
は高く、機会提供に積極的に参加し、自分
自身の意識と実践の変革と向上に積極的
に取り組むが、その興味はあくまでも、
自分自身に対してのみに向けられており、
経験を重ねた者が、より若年の就労者
に対して、育成しようという姿勢があ
まり見られない。

以上の応募者のこれまでの研究成果から、
「キャリア構築はプロセスであり、その
キャリア・プランニングを支援するため
には、キャリアの概念を今の時代に合
った形に解釈しなおすこと、更に、
女性技術者個人も、仕事、家庭とい
った、ローカルな捉え方の中での就
労満足を目指すのではなく、もっと
統合的で社会や組織の枠組みも考
慮した上での、キャリア・プラン
ニングが必要である。その実現のため
には、従来の知識・情報の獲得が主
たる目的であったキャリア教育の場
を、その目的だけに留まらず、個人
同士が協働的に学び実践しあえる
場になるよう設計する必要がある」と
いう着想に至った。

[1] D. Super, "A life-span, life-space approach to career development". J. vocat. behav., 16, 282-296(1980).

2. 研究の目的

女性技術者のキャリア構築における特に
ワークライフバランスの維持問題を中心
にして、個人の仕事に関する自己達成感
や安定感のみに焦点を当てるのではな
く、より広義なキャリアの定義と、個
人の人生全体と社会・組織を考慮した
統合的なライフプランニングの概念
を導入した。現在の女性技術者のキャ
リアとその構築に関する意識や現状
を調査・分析を通じて、個人生活、
職場環境までを視野に入れた新しい
キャリア構築の概念を提案した。個人
の調査・分析結果に基づき、必要
な支援を提案し、統合的なキャリア
発達を促すための協働的な学びの場
を設計し、個人の意識変革・発達過
程を解明するとともに、一連の研究
の有効性を検証することを目的とし
た。

3. 研究の方法

個人の仕事に関する自己達成感や安
定感のみに焦点を当てるのではなく、
より広義なキャリアの定義と、個人
の人生全体と社会・組織を考慮した
統合的なライフプランニングの概念
を導入し、女性技術者のキャリアに
関する意識と現状を調査・分析に
基づいて女性技術者のキャリア構築
における個人と組織にあったキャ
リア、および、キャリアの解釈と
支援の在り方の提案を行った。そ
して、キャリア構築過程の個人が、
キャリア構築の縦横にわたる情報
交換・経験的知識の習得を

目的とし、自身の中でのフィードバック、および、他者のキャリア構築に対してもフィードバックをできるような、協働的なワークショップ・プログラムを提案・実践し、意識変革のプロセスを解明し、その効果を検証した。

4. 研究成果

平成 26 年度は、幅広い世代の女性技術者を対象としたキャリア観、および、キャリア構築過程、直面している問題の聞き取り調査を実施する。同時に、企業に対しても、そのキャリア観と女性技術者育成における課題を調査した。その目的は、ワークライフバランスについての現状とそのキャリア構築への影響、および、キャリア構築の戦略の特徴を抽出することである。女性に限らず、若年期から始めた就労を継続していく過程で、ライフステージが変わり、その就労スタイルだけでなく、就労への考え方、興味・関心も移って行く。女性の場合は、特に、結婚・出産・育児といったライフイベントの影響を大きく受ける。こうした変化の中で、就労初期の初心を貫こうとすればするほど、自身が理解している自分が求めている目的と、本当に求めている・環境に適応した目的とがずれているために、ワークライフバランスや、メンタルヘルスに支障をきたす例があるという仮説のもとに聞き取り、企画実践を行った。若年層の女性技術者には、ライフイベントが短期間に立て続けに起こるため、キャリア構築に影響を与える影響が、より明確に表れることが予想されたため、まず、個人のキャリアの定義とキャリア・プランニングの方法、結果として取っている行動を詳細に調査・分析し、個人のキャリアの解釈とキャリア・プランニングの方法と、生じている問題を明らかにし、その相関を解明した。調査は同時に企業に対しても実施し、企業と個人のキャリア観、キャリア・プランニングのギャップについても明らかにした。

また、国内の理工系の女性研究者・技術者の社会的な現状を把握するために、応募者が所属し、活動を行っている日本女性技術者フォーラムをはじめとする関係団体への積極的な活動を行った。また、欧州・米国、カナダをはじめとする、女性技術者・研究者の活躍が目覚ましい国での環境を調査した。

平成 27 年度は、前年度に明らかとなった、個人と企業のキャリアとライフ・プランニングの考え方をより統合的にする目的で、企業の方にその必要性を説明しつつ、女性技術者に統合的なライフ・プランニングについての学習の機会を繰り返し、継続的に提供し、その学習の結果、女性技術者のキャリアの概念と統合的なライフ・プランニングをどのように活用したか、仕事・家庭問題がどのように変容したかを検証した。同時に、企業のキャリア・プランニングの考え方についても調査し、個人と企業のあいだのキャリアとライフ・プランニング(キャリア・プランニング)

に対するギャップがどう変化したかを調査した。統合的なライフ・プランニングとは、キャリア構築を考える際に、「キャリア」を単なる「職業」と捉えるのではなく、スーパーによる「生涯を通じた自己概念の発達と実現の持続的なプロセス」と再定義し、キャリア・プランニングは、自己概念を現実に対して検証し、それにより自己に満足すると同時に、社会への貢献も視野に入れた形のものである。

平成 28 年度は、2 年間で得た知識をカテゴライズし、個人と組織の双方に有効な統合的なキャリア構築のための協働的学習の場づくりにつなげるために必要な環境整備を実施することを目指した。また、自身の本質と行動のギャップを埋める作業であるキャリアチェンジの積み重ねとしてのキャリア構築の際の戦略の妥当性を実証するために、彼らのキャリアチェンジ、又は、キャリア継続への心的な刺激を与えうるワークショップ・プログラムを設計した。メンターとの意見交流の場を提供していく中で、どのような刺激、ワークショップ・プログラムが彼女たちの気づきに有効であるかを調査することが、その妥当性を評価する指標となり得ることを確認した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- (1) Keiko Nakatani, The Circulatory Integrated Community Education System which Generates Active Learning, GI Ideation Workshop @ Brown Univ., US, 2016.
- (2) 中谷敬子, 内的キャリアを重視した自律型キャリア発達支援とロールモデル, 工学教育研究講演会講演論文集 2016(0), 88-89
- (3) 中谷敬子, 理工系女子学生の就職領域に関する調査分析報告: 専門領域と就職領域の関係性とその多様性, 工学教育研究講演会講演論文集 平成 27 年度(63), 32-33
- (4) 中谷敬子, 井上千鶴子, 小塚みすず, 高専女子学生の自発的活動を軸としたキャリア発達の支援: 大阪府立大学高専女子会 ROSE の創設までの取り組み, 工学教育研究講演会講演論文集 平成 26 年度(62), 184-185
- (5) 中谷敬子, 【連載寄稿】家族と仕事, 抑えられない想いの狭間で(第 1~5 回), 2015, 日本キャリア・カウンセリング研究会会報第 90-94 号

[学会発表] (計 5 件)

- (1) Keiko Nakatani, The Circulatory Integrated Community Education System

which Generates Active Learning、G1 Ideation Workshop @ Brown Univ., US、2016.

- (2) 中谷敬子、内的キャリアを重視した自律型キャリア発達支援とロールモデル、工学教育研究講演会 2016
- (3) 中谷敬子、理工系女子学生の就職領域に関する調査分析報告：専門領域と就職領域の関係性とその多様性、工学教育研究講演会、平成 27 年度
- (4) 中谷敬子、井上千鶴子、小塚みすず、高専女子学生の自発的活動を軸としたキャリア発達の支援：大阪府立大学高専女子会 ROSE の創設までの取り組み、工学教育研究講演会、成 26 年度
- (5) 中谷敬子、【基調講演】これまでの家庭と仕事を振り返って「働く女性のキャリア開発支援を考える」日本キャリア・カウンセリング研究会年次大会（キャリア開発支援プロジェクト企画）、2014

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中谷 敬子 (NAKATANI, Keiko)

大阪府立大学工業高等専門学校総合工学システム学科メカトロニクスコース・准教授

研究者番号： 60295714